おさなき燈台守

竹久夢二

青空文庫

この物語はさほど遠い昔のことでは無い。

北の海に添うたある岬に燈台があった。北海の常として秋口から春先へかけて、海は怒(いか)ったように暴狂(あれくる)い、波の静かな日は一日も無かった。とりわけこの岬のあたりは、暗礁の多いのと、潮流の急なのとで、海は湧立(わきた)ちかえり、狂瀾怒濤(きょうらんどとう)がいまにも燈台を覆(くつが)えすかと思われた。

しかし住馴(すみな)れた親子三人の燈台守は、何の恐れる景色もなく、安らかに住んでいた。

今日も今日、父なる燈台守は、櫓(やぐら)のうえに立って望遠鏡を手にし、霧笛(きりぶえ)を鳴(なら)しながら海の上を見戍(みまも)っていた。昼の間は灯(あかり)をつけることが出来ないからこの岬をまわる船のために、霧笛を鳴して海路の地理を示していたのであった。今日はわけても霧の深い日で、ポー、ポーと鳴(なら)す笛の音も、何となく不吉(ふきち)なしらせをするように聞かれるのであった。

「姉さん、今日は何だかぼく、あの笛の音が淋(さび)しくて仕方が無いよ、そう思わない？」

「そうね、あたしも先刻(さっき)からそう思っていたけれど、摩耶(まや)ちゃんが淋しがると思って言わなかった。」

「また難破船でもあるのじゃないかしら。」

姉と弟とがこんな話をしているところへ、父はあたふたと階上(にかい)から降りて来て
「須美(すみ)、浜へ出て見てお出(い)で、何だか変な物が望遠鏡に映ったから」
「はい」
健気(けなげ)な姉娘の須美は父の声の下(もと)に立上(たちあが)ると
「姉さん、僕も行くよ」
と弟の摩耶は後(うしろ)についた。
浜へ出て見ると、果して其処(そこ)の砂浜の帆柱(マスト)の折れたような木に、水兵の着る赤いジャケツが絡みついているのが見えた。二人はそれを持って急いで帰った。父はそれを見るや否や、
「ああまたやられたか」と言って「俺(おれ)はこうしては居られない。直(す)ぐに救いのボートを出すから、須美は村の者に直ぐこのことを知らせるよう、それから摩耶は櫓(やぐら)の上で霧笛(きりぶえ)を吹いているんだぞ、しっかり吹かないと、お父さんまで難船してしまうぞ。好(よ)いか」
「大丈夫お父さん」
摩耶は元気よく答えた。
「それじゃ往(い)って来るぞ」

そう言って父はもうボートを卸して、暗い波の上に乗り出した。

「じゃ摩耶さん、あたしも村の方へ行ってきてよ。霧笛は大丈夫？……しっかり頼んでよ」

「日本男児だ！」

「本当にお父さんはじめ、難船した人達のためなのよ。しっかりやって頂戴」

姉は流石に女の気もやさしく、父の身の上、弟のことを気づかい乍ら、村の方へ走って行った。この燈台から村へは、一里に余る山路である。

父のボートは暗い波と烈しい風とに揉まれ乍ら、濃霧の中を進んだ。やがて、船の最後と思われる非常汽笛の音をたよりに、つかれた腕に全力をこめて、ボートをやった。行って見ると、船の破片にすがった半死の人が五人だけ見えた。

一人一人ボートへ助け入れたが、どの人も口を利くどころか、眼さえ見えぬようであった。ボートの舳を返して燈台の方へ漕いだが、霧は愈深くなり、海はますます暗くなり、ともすれば暗礁に乗り上げそうであった。半死の人を乗せたボートの重みと、労れ切った腕にとったオールは、とかく波にさらわれ勝であった。

ここに燈台の櫓では、父のため、多くの難船した人のため、摩耶はあらん限りの力で霧笛を吹いた。

しかし今年十二の少年の力では容易でない。忽ちへとへとに労れてしまって、霧笛の音は、とぎれとぎれになった。

しかしいま吹きやめたら、父はどんなに困るかも知れぬ。そう思うと死んでも止められない。ポーと吹いては休み、ブウと吹いては休んだ。しかし父のためだ！　多くの人人のためだ！　それでこそ日本男児だ！　吹く吹く、死んでも吹く……

また海の上では、かすかながらも鳴っている霧笛の音を聞いては、父は新しい力を腕にこめて、ボートを漕いだ。

漸くにして父のボートが汀へたどりついた。折もよし、村の人人は須美に連れられて走って来た。

遭難の人人の手当は、村人にまかせて、須美は急いで櫓の上にあがって見た。摩耶は霧笛を唇にあてたままそこに死んだように倒れていた。

「摩耶ちゃん、摩耶ちゃん」

姉は泣声で呼んだ。すると勇敢なる日本男児はすぐ甦った。

五人の遭難者も死んではいなかった。

青空文庫情報

底本：「童話集　春」小学館文庫、小学館
　　2004（平成16）年8月1日初版第1刷発行
底本の親本：「童話　春」研究社
　　1926（大正15）年12月
入力：noir
校正：noriko saito
2006年7月2日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

おさなき燈台守

竹久夢二

２０２０年　７月１８日　初版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　http://aozora.xisang.top/
BiliBili　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/